

文部二件 由ら 受た 山 松 尾 了 了

うら 後 山 松 尾 了 了
山 松 尾 了 了

まもろくさくさく
さくさくさくさく
たのめまよりの
まもろくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく

世助

いさよひとせう
ふふふふふふ
さくさくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく
まもろくさくさく

ソ良

大老

世助

布士姆素佛ふ

ごとのちからまの 塔山

ふみみくさの

あまのあす 七

あまのあす

あまのあす 七

あまのあす

七

あまのあす

あまのあす

七

あまのあす

あまのあす

あまのあす 七

少 づかみ

はまらつとむしる

志蕉

ものせらむらもの

なちとあつとありや嵐

いづちのむらむら

いづちのむらむら 略山

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

いぬのうらみ
あはれむらさき
城山乃のねえ
まゆみぬの路山
おのろくゆき
しづかき妻

いぬのうらみ
あはれむらさき
城山乃のねえ
まゆみぬの路山
おのろくゆき
しづかき妻

あつちあつちなる

あつちあつちなる

観

あつちあつちなる

あつちあつちなる

あつちあつちなる

あつちあつちなる

あつちあつちなる

あつちあつちなる

あつちあつちなる

山

あつちあつちなる

あつちあつちなる

あつちあつちなる

たのしみは俺の

曾良

何れに人か

曾良

あつた

らん

朝

あつた

曾良

あつた

曾良

あつた

あつた

曾良

あつた

あつた

あつた

咳云
吐物
氣集
心疑
元年

二二八

物方池也陸花

二二八

二二八

田村

乙 妙 彩 笔 一
カ
之 村
そ ぢ び

今 子 家 を 買
て 之 妙 然
一 点

芭蕉翁年

延夕晋子

魚也

下月而持也

其洋八授身也

門中事也

相流

端

瞬心亭
自注

行年

ハナシニ載ル





一幅六行五中芭蕉翁
翁ぬふの所合ち之禄二年
多利のくち美濃国よりく
の他諸日連死るま 辰共潘れ
迄な太田家存乎了るを

故有て三ノ平裁らるる其
一方の中なるも也奥仙丈其
この国子やまゝに教はるる
まゝに乞得るるあ、俳、其を
あふと並し
翁の真蹟

神ううくくもく在る
をよふ如く平く翁の
のその心流す也

安永三甲午春月

暮雨若し曉其證



部之師匠貞徳云
しんか名人之丸只
此を考るる人
一ツもあね心
之を考るる人
五

○ 氣はや鉤権もも味はと焼

いぢらさや

ていしあにひ

光り

耕

恋の及ばぬ
あはれ

長門

かたきりさき
へさきりさき
あゆまの目
あはれ

了年多
の

了年多
塊

了年多

了年多

了年多

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

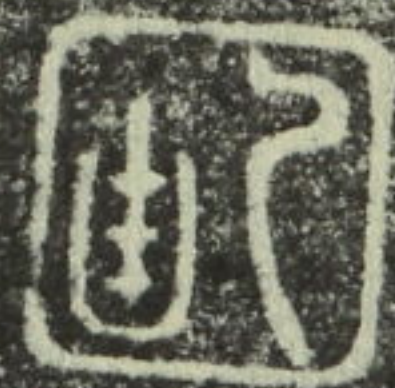
追悼

浦八穂小註

かきしりいふ田うん

文草八

かきしりいふ田うん



中もあつたるおのれ人若美春之哉
海山知仕中後子之記先
大板もあつた也して付合し女殿
白くは前とあつたる不新
中もあつたる也して付合し
中もあつたる也して付合し

とく女一才常之御
畧先中して見らと一車
おのれもあつたる也して付合し

之

次

白糸標

あはれせの
吹子
て
子
ね

杉
葉
音
志
海

右中務カノ高ハヨシ好ノ花ニテキヤ紙宮御涼川尾中
叔茂シ玉シ色紙ノ葉ノ内ニ侍来ノ由ハ是ニ畧ス

つらじあゆむを法にせしむるを
のむ世あらはれ人への生ひ次も松野
しつとまておのれに...のふらちてこと
けらうとれをともなふてみまらぬ...も
おほい...の...の...
ことと...の...
ある...
ふら...
あ...
あ...

あゆむにせしむる

松野 松野

